

「語いもんそ」

Vol.11 平成 21 年 10 月 18 日発行

この通信誌は、宝山ホールで活動されているボランティアスタッフによって発行されています。

日本の古典

能・狂言 鹿児島公演

8月2日(日)かごしま県民交流センター
県民ホール(能舞台)



能楽(能・狂言)は約 650 年前、それまでの歌や踊りの要素を集めて完成し、日本文化を表す謡・囃子・動き・色彩などがぎっしりとつまっており、ユネスコの世界無形遺産にも指定され日本人の心に触れるものがあります。

今回の公演も、鹿児島の多くのファンの方が古典の幽玄夢幻の世界を心ゆくまで堪能されました。

お客様に感想をお聞きしました。

鹿児島市唐湊の和田倫知さん(中学2年)

「日本の古典がどういうものか知りたかったのと、夏休みの課題の宿題を終わらせるために観にきました。能は少し難しかったが、狂言はユーモアもあり面白かった。機会があれば友達も誘って観に来たいと思います。」と感想を話して下さいました。



鹿児島市真砂本町の竹之内礼子さん(写真左)と彩(高校1年)さん。

母親の礼子さんは、「高校のときから古典が好きで興味がありました。」娘の彩さんは謡曲に興味があり、「風格・気品があって奥行きもありました。能の黒塚では鬼女があわれで涙が出てきました。これからも多くの方が能楽の青少年講座などでもっともっとふれあい、身近にしなければならぬ。」と、能楽を生で観た感想を語ってくれました。



宝山ホールオリジナルスイーツ。

当日準備した【たいこのわぎり】と【ピッコロ】はご来場されたお客様に大好評で完売しました。販売担当の二人も売れ行きのにすごさに感動し、感謝を込めて販売しました。



第30回霧島国際音楽祭

キリシマ祝祭管弦楽団公演

8月7日(金) 宝山ホール



今年で30回を迎える音楽祭は、国際的にも高い評価を得ています。

アーティストに教授や受講生が加わり、音楽祭期間中に一度だけ結成される特別編成のオーケストラで、その豪華なメンバーの演奏に、立ち見席が出るほどの満員のお客様は華麗な音色に聴き入っておられました。



開演を待つ満員のホール

お客様にお聞きしました。

伊集院高校2年音楽部の宮原加代子さん(フルート 写真左)、穂満美紀さん(フルート 写真中央)、池満舞子さん(トランペット 写真右)

仲よし三人組で、音楽部49名中今日は、41名の部員と共に演奏を聴きにきたそうです。



3人の感想は、

- ・普段の吹奏楽にはない弦が入ることにより音が厚くなり、表現が豊かで、自分たちも今日聞いた豊かな音をイメージしながら吹いていきたい。
- ・表現がとても豊かで、曲の盛り上がり方がすごかった。フルート奏者もとても体で表現していて、ピブラートがとてもきれいに響いていた。静と動を感じた。
- ・管弦楽の中でのトランペットの音色がとてもやわらかく、周囲の音にとけこんでいた。
- ・管楽器が入ると音の幅がかなり広がった。フルートは小さい音のはずなのにとても大きく聞こえた。すべての楽器が他のすべての音とまざり合っていた。演奏している人たちがとても楽しそうだった。細かい連符は、すべての音がはっきり聞こえて、P(小さい音)でもよく聞こえた。
- ・弦楽器なのに、しっかり息を使っていた。各パートでユニゾンが1つの音に聞こえて強弱がすごかった。みんなの感情がこもっていた。

3人は今日の感動を自分達の活動にいかしたいと笑顔で話してくれました。

今年は開演前に公開リハーサルがあり、見学者に感想をお聞きしました。

鹿児島市鴨池町の山下和実さん

「今回、本番直前の公開練習を見て、オーケストラの演奏会を別の面から楽しむことができました。指揮者と演奏家たちの最終確認であると同時に、舞台設定の準備(椅子の配置や冷房の調節など)でもあることがわかりました。演奏会は、裏方も含めて大勢の人が共同で創りだす作品だと思いました。」とゲネプロの感想を話して下さいました。公演ボランティアも頑張りました。



梶原裕子さん(写真左端)と牧園美穂さん(写真左から2人目)は「初めての受付で緊張しました、

招待者はお席まで案内するのが前提ですので、失礼がないように案内できるか不安がいっぱいドキドキしていました。」と話してくれましたが、二人とも明るく笑顔で対応できました。

宝山プレゼンツ

歌劇 ドン・ジョヴァンニ

9月15日(火) 宝山ホール



日本オーストリア修交140年記念。

オーストリア大使館の後援で上演されました。

モーツァルト不朽の名作で、「オペラの中のオペラ」ともいわれ、主役のゲオルック・レナエルがいきいきと歌っているので、「ドン・ジョヴァンニ」の活力が伝わってきます。まわりの歌手たちが活動的でありながら全体として統一がとれている、こんなにすばらしい、「ドン・ジョヴァンニ」はめったに見られないのでお客様も大変ご満足のようでした。

お客様にお聞きしました。

県庁国際交流課に今年4月から勤務の、

・江昕如(コー・キンジョ)さんは、中国江蘇州南京市出身で、「高校の授業でオペラの紹介があり興味をもちました。しかしオペラを生で観たことはなく、今回「オペラの中のオペラ」が鹿児島で観られる事がわかり、パンフレットの説明に興味を持ち、ドン・ジョヴァンニのストーリーも事前に勉強してきました。想像を超える声がすばらしくとても感動しました。」と感想を話して下さいました。江昕如さんが話す日本語がとても流暢で大変驚きました。勤務は来年3月までだそうです。日中両国の架け橋として頑張ってくださいね。

・李智恵(イ・ジエ)さんも、県庁国際交流課に勤務されており、韓国京畿道水原のご出身。

「普通オペラは、料金がなくてなかなか観られませんが、今回は価格も手ごろで、気の合う仲間と来ました。」と上手な日本語で話して下さいました。



李智恵さん(写真左)・江昕如さん(写真右)

松陽高校音楽科3年の上迫志帆さん(写真左)と堀之内菜摘さん(写真右)

「修学旅行で、ウィーンへ行きオペラを観ました、迫力がありすごいと思いましたが字幕がイタリア語でしたのでストーリーの理解ができませんでしたが、今日は日本語の字幕、知っている曲や歌の伴奏で弾いた曲がありましたので、楽しむ事ができました。

「生のオペラは迫力が違います」と感動のままに話して下さいました。



公演ボランティアスタッフの皆さんです。

今回も入場者案内・場内整理・警備・ドア管理・受付・クローク・自主事業前売りチケット販売・宝山スウィーツ販売などを担当しました。

公演スタッフの一員として参加し、充実感のある笑顔の皆さんです。



みて きいて あそぼう！

鹿児島県文化振興財団体験フェア2009

9月17日(木)～21日(月)

財団4施設連携企画で、4施設(宝山ホール・みやまコンセール・霧島アートの森・上野原縄文の森)のプチ体験ができました。

一部をご紹介します。



火おこし体験を頑張りました。



『ランプシェード作り』 薄紙とラミネートシートを使って、ランプの傘を作りました。



無料の「どんぐりうどん」と「ミニミニ・コンサート」も大人気のコーナーでした。

9月21日は、親子で楽しむメルヘンコンサート & おはなし会が山形屋文化ホールでありました。



200人を超すご家族連れのお客様は、歌(童謡・アニメソング) お話(童話など)を聴いたり共に唄うなど、楽しい時間を過ごされました。

財団体験フェア取材しました。

小川町から、1年生の娘さんと参加の上野様

「火おこし体験をしましたが、なかなか舞錐を回すのが難しかったです、でも点火した時は思わず両手をあげて喜びました。」ただ、火のおこし方がわかるように1台の道具に1人の指導者がついていただきたいという要望もありました。

この催しをテレビで知り伊集院から小学4年生の娘さんと参加の堂園様。

娘のあやさんは、「滑石を使ってヤスリ板で円く削るところが難しかったです。立派に仕上がったアクセサリーはバッグにつけます。」と笑顔で話してくれました。

「ミニミニ・コンサート」や「あなたが主役！」をご覧になった、平野町から参加の高田様。

「日頃の活動の成果発表ということで、一つひとつの発表はとてもすばらしかった。ただ、発表者側からみると、もっと多くの方々に鑑賞してもらえたら張り合いがあるのではないのでしょうか。」と、PRの大切さを感じておられました。

メルヘンコンサートで受付を担当しました。

ベビーカーでの親子連れや、お父さんもご一緒の家族連れで会場はうまり、お話や歌も客席とのコミュニケーションが取れていてコンサートは大いに盛り上がりました。終了後5歳ぐらいの女の子が「楽しかったです。」と笑顔で話してくれました。

《今回の取材担当》

取材記事 広報ボランティア 鮫島尚武

取材記事 広報ボランティア 二川道子

撮影・取材記事 広報ボランティア 四十住孝行

宝山ホール広報ボランティア「語りもんそ」編集部

〒892-0816 鹿児島市山下町5-3 宝山ホール

TEL099-223-4221 FAX099-223-2503